

# 空間の健康・快適性に係る 主観と客観の統合的評価技術の開発

建築都市工学部  
住居・インテリア学科  
教授

香川 治美



## 研究シーズの紹介

本研究の目的は、空間の健康・快適性を、環境工学・人間科学・生体医工学の立場から在室者とその空間の環境物理量に係る主観・客観データを用いて統合的に評価する技術の開発である。

利用する在室者が居心地よいと感じるように空間を設計しデザインするためには、周囲の環境と、在室者の生理や心理、精神に関する主観かつ客観的な統合評価が必要であると考える。



### 主観と客観の 統合的評価技術

- 在室者とその空間の環境物理量に係る主観・客観データを用いて、空間の健康・快適性を統合的に評価することが可能な技術です。

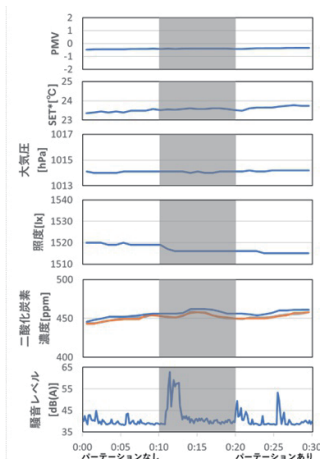


図1 環境物理量の測定結果の例

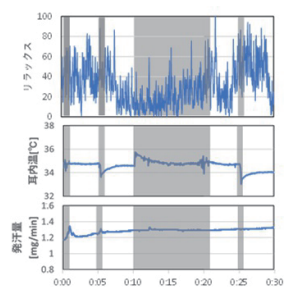


図2 ストレス反応の測定結果の例

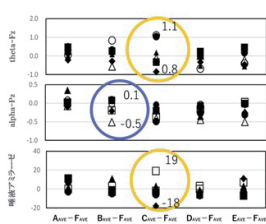


図3 ストレス反応の比較の例

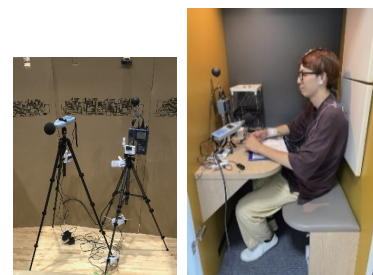


写真 測定の様子



## 期待される活用シーン

● 段ボールベッドの寝心地をよくするには、周囲に、パーティションを置いた方がよい？



ストレス反応、気分尺度と環境物理量のデータを比較して、パーティション有無による寝心地の差を定量評価します。



● 居心地のよい空間を効果的に演出できる香りはどれ？



ストレス反応、気分尺度と環境物理量のデータを比較して、香りの違いによる居心地の差を定量評価します。



### その他の研究テーマ

- ・ 段ボールベッドのパーティション有無による寝心地評価のための実験研究
- ・ 居心地の総合評価に関する実験研究